

分科会名称：テレナーシング分科会
分科会長氏名；亀井 智子
分科会長所属；聖路加国際大学大学院
分科会長連絡 E-mail；kamei@slcn.ac.jp

1. 分科会の目的

看護職が行うテレナーシングの実践・教育・研究を確立し、普及するための調査研究、および情報発信と交流等を行う。

2. 令和 7（2025）年度活動実績と成果

- ・ 1. 学会関連
- ・ 第 29 回日本遠隔医療学会学術大会(10 月 25 日)において、シンポジウム「多様な専門性を活かした遠隔支援」を当分科会が企画し、亀井・加澤が座長を担当した。亀井(本分科会長)、長縄拓哉氏(歯科遠隔診療分科会長)他 2 名がシンポジストとして登壇し、各専門性を活かした遠隔医療の実際について討議した。
- ・ 第 1 回デジタル医学会年次学術大会ランチョンセミナー(10 月 19 日)において、亀井が講師として「在宅医療の新時代:テレナーシングと遠隔デバイスが拓く未来:テレナーシングの最前線と今後の展望」と題して講演を行った。
- ・ 第 34 回日本老年学会総会 (6 月 27 日)において、原田・亀井が一般演題において「肺がん高齢者に対する遠隔モニタリングに基づくテレナーシングの療養経験:テレナーシング群と対面ケア群の療養経験の違いに焦点をあてて」を発表し、優秀ポスター発表賞を受賞した。
- ・ 第 29 回東京呼吸ケア研究会(5 月 31 日)において、亀井が「呼吸器系疾患における在宅モニタリングとテレナーシング支援」について講演を行った。
- ・ MMIRA Asia Regional Conference Tokyo 2025 (11 月 8 日) パネルディスカッションにおいて、邵と亀井が『Experiences of Telenursing and Quality of Life Changes in an Older Adult Receiving Peritoneal Dialysis: A Mixed Methods Case Study』を発表した。
- ・ 第 30 回日本緩和医療学会学術大会 (7 月 4 日)において、吉田がワークショップ「がん疼痛に対する遠隔看護実践上の気づき」及び、ポスター「在宅療養中の疼痛をもつ進行がん患者・家族および介入した訪問看護師による遠隔看護介入効果」を発表した。
- ・ The 2nd International Nursing Research Conference (12 月 2 日)において、吉田が「Telenursing practice for symptom relief in cancer patients by tele-nurses : A qualitative study」を発表した。
- ・ 第 40 回日本がん看護学会 (2 月 21 日)において、吉田がパネルディスカッション「がん疼痛に対する遠隔看護」を発表した。
- ・ 第 19 回日本慢性看護学会学術集会 (9 月 7 日)において、加澤が「慢性期ケア領域における遠隔看護実践の変遷：スコーピングレビュー」を発表した。
- ・ The 56th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference (11 月 6 日)において、加澤が「The efficacy of support for preventing social isolation and loneliness among community-dwelling older adults using communication robots: A single-group pre- and post-test」を発表した。

- ・ 2. 教育関連
- ・ 履修証明プログラム「ケアイノベーションコース」を聖路加国際大学において開講した(亀井)。
- ・ 文部科学省選定 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 地域に貢献する北海道がんプロ養成プラン講演にて「がん患者と家族の生活を支える遠隔看護」について講演し、その後に開催された事例検討会「電話を用いたセルフマネジメント支援」にてアドバイザーを担った(吉田)。
- ・ 3. 出版物関連
- ・ エssenシャルズ看護情報学 2026 年版(医歯薬出版)において、看護における情報システムの活用例の章に、テレナーシングについて執筆した(亀井)。
- ・ 在宅ケア実践ガイドライン 2025(医歯薬出版)において、第 9 章 ICT を利用した支援のエビデンスの確認、および執筆を行った(亀井)。
- ・ Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing において、Telenursing practices for the relief of symptoms in patients with cancer: A qualitative study.がアクセプトされた (吉田)。
- ・ Annals of palliative medicine 14(6)において、A systematic review of randomized controlled trials on telecommunication technologies for pain management in patients with advanced cancer: incorporating electronic patient-reported outcomes (ePROs).が掲載された (吉田)。
- ・ BMC Nephrology において、Short-term effectiveness of telehealth interventions for people in maintenance dialysis: differential impacts on clinical outcomes by modality and intervention type - a systematic review and meta-analysis が掲載された。(邵・亀井)

3. 令和 8 (2026) 年度活動計画

- ・ 第 30 回 JTTA 学術大会において、テレナーシング関連のシンポジウムなどの機会を検討する。
- ・ その他、テレナーシングの国内看護実践の普及のため、教育活動、情報提供、国内外の学会等においての発信を推進する。

